

第4号

「すきです ふじみ！」
 よいよい 富士見づくり
地域づくり通信

回覧



富士見地区地域づくり協議会

事務局 前橋市富士見町小暮1588-1 小川 浩 TEL 027-288-5439

防災講演会

自分の命は自分で守る

富士見地区地域づくり協議会の「ふれあい交流部会」では、関係団体・機関の協力を得て、富士見公民館を会場に、市民防災研究所の伊藤英司さんを講師に迎え、大切な家族を守ることを目的に、「大震災！いのちと暮らしをどう守る」と題して講演会を開催しました。

二〇一一年三月十一日午後二時四十六分発生した三陸沖を震源とする観測史上最大の東日本大震災は、日本に未曾有の大災害をもたらしました。

被災地から学ぶことは、いつ災害が来ても「ふだんの備え」が重要で、「自分の命は自分で守る」ことの意識を一人ひとりがもつことです。「備えと日ごろの訓練」が災害時に必ず生きることを実感しました。

防災対策は「自分の命は自分で守るしかない」ことを念頭に「何を、どうすべきか」を普段から備えていることが、防災の基本です。

また、地域防災力の基本は、コミュニティの連帯力です。特に助け合いは「挨拶」から生まれます。「地域のイベント」は、現在の社会で失われてきた大切なものを見直す機会でもあり、積極的に参加することが必要です。

一人が地域の暮らしを守るためには、ライフライン等が止まったことを想定し、生活体験など、必要な準備や、代替手段を考えておくことが、災害時に大いに役立ちます。



防災講演会開催

首都圏を含めて直下型地震が起きる確率が高まっています。大地震は、日本のいつでも起きても不思議ではありません。

私たちが、住む富士見町も例外ではありません。「いざ」という時のため、防災、減災に向けた知識は大いに必要です。

地域の皆さんが、大切な「いのち」を守らなければならぬ「その時」を自覚し、備えたいものです。

今回の講演会は、参加者に好評でした。地域づくり協議会では、平成二十五年度も防災講演会を継続して開催する予定です。

(担当：北澤)

助け合いは
 コミュニティの連帯感と「挨拶」から

「ふだんの“備え”と日頃の訓練」

ライフラインが止まったこと
想定した備え

お風呂



ペットボトル



簡易ランプ



水道

代替手段は何かありますか？

電気

ガス



卓上コンロ

空き缶利用

牛乳パックも初期消火に大活躍



3~4回に分けて放出される
屋外や風呂場で一度やってみると自信がつくよ

第53回 富士見地区子ども会カルタ大会

富士見かるたの改訂記念大会
山回Aチームの低学年の部優勝

平成二十五年一月二十日富士見町田島の富士見公民館において、富士見VYS主催の富士見かるた改訂記念の第五十三回富士見地区子ども会カルタ大会が開催されました。

大会は、子ども会対抗の団体戦で一チーム3名により予選リーグが行われ、低学年は二チーム、高学年は一チームがそれぞれ決勝トーナメントに進み、優勝を争いました。

各参加チームは、改訂された絵札・読札で良く練習を積んで来ており、円滑に大会が進められ、各々が激戦が繰り広げられました。

大会の成績は、低学年の部・山口Aチーム、高学年の部・徳沢Aチーム、一般の部・引田Cチームが優勝をしました。

今回は、富士見かるたが十四年ぶりに改訂され、その記念大会と銘をつけての開催でしたので、大会を祝し参加者全員による抽選会も行われ、好評のうち大会を終了することができました。

「好きですふじみ」の富士見地区地域づくり協議会チームも一般の部で参加し、健闘しましたが惜敗してしまいました。

このかるた大会を通じて、富士見地区の地域のことや歴史・伝統を知り、理解を深めていただければ幸いです。

(担当・狩野)



盛大に行われた開会式

発行者責任者
富士見地区地域づくり協議会
会長 小川 浩

編集・監修
富士見地区地域づくり協議会
広報委員会

印刷所
社会福祉法人 あかぎの響

地域づくり編集後記 (メッセージ)

富士見カルタ大会が開催され、地域づくり協議会も参加いたしました。会場内は元気な声が響き合い活気に溢れていました。

また、ふれあい交流部会が中心になり、3月9日に大切な家族を守る防災講演会を開催しました。身近な問題で関心も深かったと思います。常に防災意識をもち、大切な命を守るために自分たちで出来ることを見つけ、普段から行動できる知識を持つことが重要だと感じました。

森 幸隆